

令和元年漁期のイセエビ漁況予測

1 伊豆地域におけるイセエビ漁業について

イセエビは、静岡県では伊豆半島で水揚げが多く、重要な磯根漁業対象種となっています。水揚量の大半を占める南伊豆や下田の漁獲量は、昭和60年代以降、増加傾向で推移し、平成30年の漁獲量は約69トンと高水準で安定しています（図1）。

当场では、イセエビ資源を持続的に利用できるよう、漁獲量や子エビの混獲尾数、漁獲物の体長等の調査を実施しており、それらデータに基づきイセエビの漁況予測を行っています。

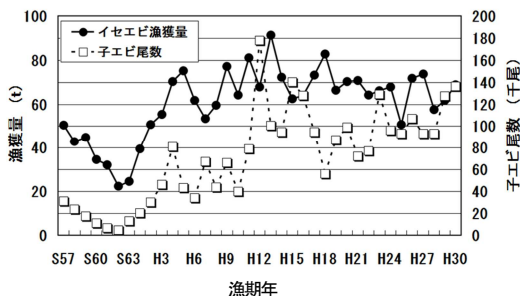


図1 南伊豆・下田地先におけるイセエビ漁獲量と子エビ混獲尾数の経年変動
※漁期年:n年9月～n+1年5月

2 今漁期のイセエビ漁況予測

(1) 令和元年度白浜定地水温の経過と予測

沿岸の海水温に大きく影響を及ぼす黒潮の流路は、令和元年8月の中央ブロック漁海況予報によると、大蛇行が終息する兆候が見られず、12月頃まではA型が継続すると予測されています。

また、8月下旬の白浜定地水温は「平年並み」で推移しています。12月までの相模湾～駿河湾の海水温は「平年並み」～「高め」で推移すると予測されていることから、南伊豆・下田地先の海水温も12月まで「平年並み」～「高め」で推移し、イセエビに好適な環境になると予測しました。

(2) 令和元年漁期のイセエビ漁獲量の予測

ある年の子エビの混獲尾数と、その翌年の漁期のイセエビ漁獲量との関係（子エビの混獲尾数が多いほど翌年のイセエビ漁獲量も多くなる）から導いた計算式に、平成30年の子エビ混獲尾数を代入し、令和元年漁期（9～翌年5月）の漁獲量を推定しました。その結果、南伊豆地区は昨年の漁獲量（38.4トン）および平成元年以降の平均値（37.8トン）をやや上回る44.7トン（図2・3）、下田地区

は昨年の漁獲量（30.4 トン） および平成元年以降の平均値（28.6 トン） 並みの 29.9 トンと推定されました（図4・5）。

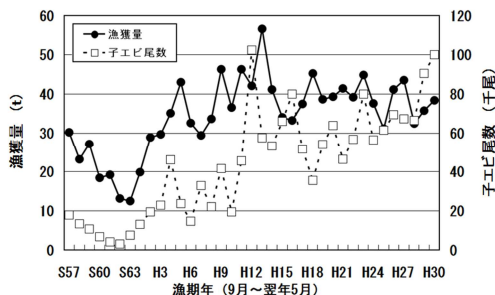


図2 南伊豆地先におけるイセエビ漁獲量と子エビ混獲尾数の推移

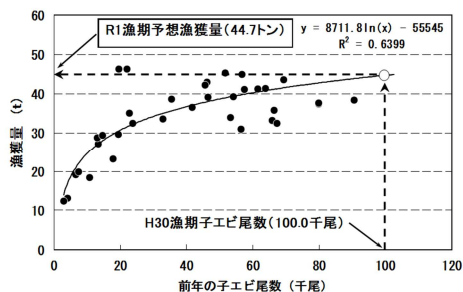


図3 南伊豆地先の子エビ混獲尾数と翌年の漁獲量の関係

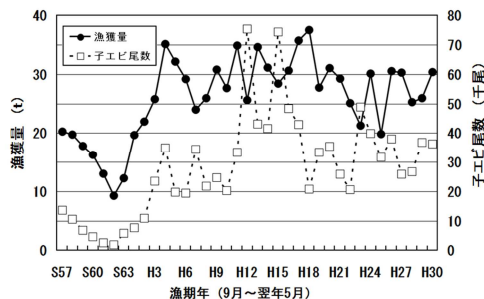


図4 下田地先におけるイセエビ漁獲量と子エビ混獲尾数の推移

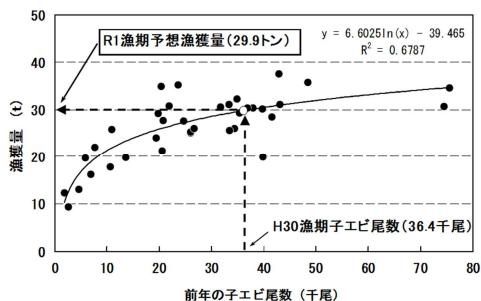


図5 下田地先の子エビ混獲尾数と翌年の漁獲量の関係

今漁期もイセエビの漁獲量は高水準となる見通しです。しかし、近年はイセエビ漁業解禁後の9、10月に頻発する大型の台風によって、漁業関係者からはイセエビの住処が砂礫で埋まってしまうという話も聞きます。当场ではこうした生息環境の変化にも注意し、漁獲量の推移を分析したいと思います。

最後に、近年の漁獲量が高水準に維持されているのは、混獲される子エビの再放流や休漁期間の設定といった、漁業関係者が資源保護に取り組んだ成果でもあります。今後もイセエビ資源を高水準で維持できるよう、引き続きの御協力をよろしくお願いします。

(永倉靖大)